



# ネット上の学術情報

学術論文以外にも、いろいろな学術情報が公開されています。特に、自分の研究テーマに関連する研究所などのホームページはチェックする価値があります。代表的なサイトをいくつかご紹介します。

## ●国文学研究資料館

(<https://www.nijl.ac.jp>)

国内の古典籍を検索できる「国書データベース」など、国文学に関する情報を収集できます。ここで公開されている江戸時代のレシピ本で、復元料理を作るのが、一部で流行っているとか。



## ●国土交通省 国土地理院

(<https://www.gsi.go.jp>)

日本地図を作成している機関です。地図や空中写真、昔の地図(旧版)などの地理情報を公開しています。



## ●国立天文台

(<https://www.nao.ac.jp>)

日の出日の入りといった基本情報データや天体ショーの情報など、星に関する情報が入手できます。



# 百科事典の今

「調べ物はまず百科事典から」が、ネットが発達した現在でもやはり王道です。無料で公開されているオンライン事典も、使えないわけではありませんが、有料コンテンツを超える品質のものはありません。右で紹介しているような百科事典が使えるなら、そちらを使いましょう。

近くに公共図書館があるなら、子ども向けの百科事典もおすすです。図版が多く、説明文も平易でありながら、マニアックな小学生の要求にも応えられる濃密な内容で、高い評価を得ているものが多いです。

# 百科事典・辞書 (甲南大限定)

## ●JapanKnowledge Lib

定番の『日本大百科全書』、日本最大の国語辞典『日本国語大辞典』、歴史学には必須の『国史大辞典』など、冊子体でも定評のある複数の辞書・事典を横断検索できるデータベースです。

「新編日本古典文学全集」や「東洋文庫」、「週刊エコノミスト」などの電子書籍も閲覧できます。

### 【検索結果画面】



ログアウト  
使い終わったら  
ログアウトに  
ご協力ください

項目内容  
分類の仕方は出版社によって異なります。  
注目業界や新興業界は別ページに  
特集されていることも

## ●ブリタニカ・オンライン・ジャパン Encyclopaedia Britannica

18世紀から編纂され続けている世界最大の国際百科事典。

2012年以降冊子体の発行を停止し、オンラインの特性を生かして画像や音声、映像データも収録されています。

簡易的な日本語版(ブリタニカ・オンライン・ジャパン)と本体となる英語版(Encyclopaedia Britannica)が利用できます。

### 【Encyclopaedia Britannica 検索結果画面】



日本語に翻訳

関連情報への切り替え

●多言語検索  
除外するときにも意外と便利です。

「日本語のページを検索」と表示されているときは、日本語のサイトを限定に設定されています。この表示をクリックして、「すべての言語」を選択すると、範囲が広がります。

●Google での検索できない情報

学内限定のデータベース、電子書籍、電子ジャーナルは、Googleでは検索できません。甲南大学で利用できる資料を検索するときは『いろいろでいすかばりー』が便利です。各ホームページには検索されやすいようにキーワード(メタデータ)が埋め込まれており、Googleはその情報を収集しています。この情報が適切ではない場合、ページがヒットしないことがあります。自分がインターネット上で情報発信するとき、工夫したいポイントです。